

科目名	成人看護学概論	必修	選択		授業形態	単位数	開講時期
					講義	1	1年 後期
区分	専門分野						
担当者	越智恵美子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成長発達からみた成人期にある人の身体的・心理的・社会的側面を知ることにより、生活している人の特徴を総合的に理解する。また成人期にある人の健康の現状と動向を理解し、健康な生活を保持・増進するために必要な看護の機能と役割を理解する。</p> <p>さらに援助の目的をセルフケア促進という視点からとらえ、成人期の生活過程を理解し、疾病予防のための援助方法について学ぶ。</p> <p>成人看護に関心を持ち、自己の健康と比較し、健康観を養うことができる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人の位置づけについて説明できる。 2. 成人各期の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題について説明できる。 3. 成人期にみられる健康障害が成人の特徴・生活スタイルと関連づけて説明できる。 4. 成人の健康レベルに対応した看護について説明できる。 5. 成人の特性や能力に応じたアプローチの基本について説明できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護学ガイダンス 2. 成人の概念、発達課題 3. 成人各期（青年期）の特徴 4. 成人各期（壮年期・向老期）の特徴 5. 成人の生活を理解する視点と方法 6. 健康観の多様性と看護 7. 学習の特徴と看護 8. 生活習慣に関連する健康障害／職業に関連する健康障害 9. 生活ストレスに関連する健康障害／セクシュアリティに関連する健康障害 10. 余暇活動に伴う健康障害／更年期にみられる健康障害 11. 病みの軌跡 12. セルフケア／ストレス／危機 13. 適応／自己効力 14. ヘルスプロモーション 15. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 成人看護学(1) 成人看護学概論 メディカ出版</p>							
<p>参考書</p> <p>厚生統計協会編集 国民衛生の動向 厚生労働省監修 厚生労働白書 日本看護協会編 看護白書 医学情報科学研究所編集 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA 氏家幸子監修 成人看護学 A.成人看護学原論 廣川書店 服部祥子著 生涯人間発達論 医学書院</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験、レポート、グループワーク、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	経過別看護過程と援助技術	必修	授業形態			単位数	開講時期	
			講義・演習				1	2年 後期
区分	専門分野							
担当者	木谷有紀	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	7	45時間
担当者	武田有紀	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	6	45時間
担当者	西川紀恵	資格	元看護教員	実務経験	有・無	時間	15	45時間
担当者	松下ゆかり	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15	45時間
担当者	越智志保	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	2	45時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>成人を対象とした看護における主な看護問題の解決に必要な知識と技術を、演習により習得する。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある患者の病期の特徴に応じたアセスメントの視点を理解できる。 2. 成人期にある患者の看護上の問題点を抽出でき、解決に必要な看護を理解できる。 3. 手術前後に必要な看護技術について、学内演習で実施できる。 4. 循環を助けるための看護技術について、学内演習で実施できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p><越智志保></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術演習（血液検査：血糖測定の方法と実施） <p><西川紀恵></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ～8. 急性期にある対象の事例展開『胃癌』 <p><松下ゆかり></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ～8. 慢性期にある対象の事例展開『糖尿病』 <p><木谷有紀></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ～4. 看護技術演習(救命救急処置技術) <p><武田有紀></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ～3. 看護技術演習（排痰ケア：体位ドレナージ、生体検査時の援助：12誘導心電図） 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝疾患 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器疾患 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院</p>								
<p>参考書</p> <p>新道幸恵監訳 看護診断ハンドブック 医学書院</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>演習および校内演習、レポート、グループワーク参加の態度、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>								

科目名	急性期の看護	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習				
区分	専門分野						
担当者	篠原健司	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	15 / 30時間
担当者	千場美保子	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	15 / 30時間

授業の目的・ねらい

急性の経過をたどる人の特徴を理解して、生命維持を図るとともに心身の苦痛緩和・早期回復を目指した援助方法を習得する。

生命危機にある人の看護として、循環器機能を障害された人の特徴、症状、看護が理解できる。また、手術を受ける対象を理解し、術前・術後に必要な看護を習得する。

学生の到達目標

1. 生命危機にある人や家族の特徴を理解し、生命維持・回復に向けた看護を理解できる。
2. 循環器機能障害を持つ人の主要症状・検査・治療・看護について理解することができる。
3. 手術を受ける患者の術前・術中・術後の看護を理解することができる。
 - 1) 回復術を受ける患者の術前・術後の看護の特徴と援助方法を理解できる。
 - 2) 開胸手術4を受ける患者の術前・術後の看護の特徴と援助方法を理解できる。
 - 3) 甲状腺手術を受ける患者の術前・術後の看護の特徴と援助方法を理解できる。

授業概要（授業計画）

<篠原健司>

1. } 生命危機にある人の看護
2. } 突然の展開により生命の危機的状況にある人の理解
看護の目的と機能
3. クリティカルケア概念
クリティカルな状態にある患者の看護 家族への看護
4. 循環機能障害をもつ人の看護の特徴
5. 循環機能障害の主要症状に対する看護
6. 循環機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護 -
ME機器デモンストレーション
(心電図・心臓カテーテル検査、中心静脈圧測定・心臓リハビリ)
7. 対象となる主な病態と看護 -
心不全 虚血性心疾患 血圧異常 心臓手術後の患者の看護
8. 終講試験 まとめ

<千場美保子>

1. } 手術を受ける対象の看護
2. } 手術を受ける対象の特徴
3. } 手術による影響
4. } 手術を受ける対象の看護 - 術前・術中・術後
5. 開腹手術を受ける患者の特徴と問題
6. 開胸手術を受ける患者の特徴と問題
7. 開胸手術を受ける患者の看護
8. 終講試験・まとめ

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
 系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院

参考書

成績評価方法

筆記試験、グループワーク、レポート、出席状況を含めて総合的に評価する。

科目名	回復期の看護	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義				
区分	専門分野						
担当者	越智麻衣	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	4 / 30時間
担当者	伊東桃子(八木世莉奈)	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	11 / 30時間
担当者	川本小夜子	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	11 / 30時間
担当者	磐浅万紀子	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	4 / 30時間

授業の目的・ねらい

回復の経過をたどる人の特徴を理解し、社会復帰に向けての援助方法を理解できる。
 運動機能を障害された人の特徴、症状、看護を学ぶ。
 感覚機能・言語機能を障害された人の特徴、症状、看護が理解できる。
 身体機能の一部を喪失する、あるいは喪失した人の特徴をふまえ、障害受容へと自立へむけた援助方法を学ぶ。

学生の到達目標

1. 回復過程にある人にあり、障害をもつ人の心理やニーズおよび家族の問題と援助方法が理解できる。
2. 運動機能系・感覚機能・言語機能の障害がある人の主要症状・検査・治療・看護を理解することができる。
3. 身体の機能の一部を喪失した人の理解ができ、自立への援助方法を理解できる。
4. 内分泌機能障害のある人の主要症状・検査・看護を理解できる。

授業概要（授業計画）

<越智麻衣子・磐浅万紀子>

1. } 回復過程にある人の特徴と問題
2. }
3. } 回復過程にあり、障害をもつ人の援助方法
4. }
5. 終講試験・まとめ

<伊東桃子（八木世莉奈）>

1. } 運動機能障害をもつ人の看護
2. } 運動機能障害の主要症状に対する看護
3. } 運動機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護
4. }
5. 演習
6. 運動機能障害をもつ人のおもな看護
7. 筆記試験・まとめ

<川本小夜子>

1. } 脳・神経系（認知機能・コミュニケーション）に障害をもつ人の看護
2. } 脳・神経系に障害をもつ主要症状に対する看護
3. } 脳・神経系のおもな検査・治療・処置に伴う看護
4. } 脳神経系に障害をもつ人のおもな看護
5. }
6. 筆記試験・まとめ

<越智麻衣>

1. } 身体の一部喪失に伴う、諸機能の変化とその看護
2. } (乳房切除術を受ける患者の看護)

<磐浅万紀子>

3. } 身体の一部喪失に伴う、諸機能の変化とその看護
4. } (人工肛門造設術を受ける患者の看護)

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑩ 運動器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器 医学書院

参考書

氏家幸子監修 成人看護学 第2版 D. リハビリテーション患者の看護 廣川書店

成績評価方法

筆記試験、出席状況で総合して評価する。

科目名	慢性期の看護	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義				
区分	専門分野		選択				
担当者	村上比奈恵	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	7 / 30時間
担当者	越智志保	資格	認定看護師	実務経験	(有)・無	時間	8 / 30時間
担当者	木村美緒	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	9 / 30時間
担当者	伊藤由美	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	6 / 30時間

授業の目的・ねらい

慢性期の経過をたどる人の特徴を理解して、自立・再発防止のための援助方法を理解する。
 疾患の自己コントロールを必要とする人が社会生活に適応できるようにするための援助について学ぶ。
 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の主な看護の特徴、症状、看護を理解する。

学生の到達目標

1. 生涯にわたり疾病のコントロールを必要とする人の適応過程と看護の特徴を理解できる。
2. 病院から地域へ社会復帰における看護の役割を理解できる。
3. 栄養代謝障害と内分泌機能障害をもつ人の看護を理解できる。
4. 免疫機能の障害と肝機能障害をもつ人の看護を理解できる。
5. 腎機能障害をもつ人の看護を理解できる。

授業概要（授業計画）

<越智志保>

1. 生涯にわたり疾病コントロールを必要とする人の看護
2. 栄養代謝障害をもつ人の看護
 - 1) 糖代謝障害をもつ人の看護の特徴
3. 2) 糖代謝系の主要症状に対する看護
 - 3) 糖代謝障害の検査・治療・処置に伴う看護
 - 4) 糖代謝障害をもつ人の看護
4. 終講試験・まとめ

<村上比奈恵>

1. 内分泌機能障害をもつ人の看護
 - 1) 内分泌機能障害をもつ人の看護の特徴
2. 2) 内分泌系の主要症状に対する看護
 - 3) 内分泌系の検査・治療・処置に伴う看護
3. 4) 内分泌機能障害をもつ人の看護『甲状腺機能亢進症』
4. 終講試験・まとめ

<木村美緒>

1. 免疫機能の障害をもつ人の看護
 - 1) 免疫機能障害をもつ人の看護の特徴
 - 2) 免疫機能障害の主要症状に対する看護
2. 3) 免疫機能障害の検査・治療・処置に伴う看護
 - 4) 免疫機能障害をもつ人の看護『膠原病』
3. 肝機能障害をもつ人の看護
 - 1) 肝機能障害をもつ人の看護の特徴
4. 2) 肝機能障害の主要症状に対する看護
 - 3) 肝機能障害の検査・治療・処置に伴う看護
 - 4) 肝機能障害をもつ人の看護『肝炎』『肝硬変』
5. 終講試験・まとめ

<伊藤由美>

1. 腎機能に障害をもつ人の看護
 - 1) 腎機能に障害をもつ人の看護の特徴
2. 腎機能障害の主要症状に対する看護
 - 3) 腎機能障害の検査・治療・処置に伴う看護
3. 腎機能に障害をもつ人の看護『慢性腎不全』
4. 終講試験・まとめ

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑤ 消化器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院

参考書

成績評価方法

筆記試験、出席状況で総合して評価する。

科目名	終末期の看護	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	2年 後期
区分	専門分野						
担当者	加賀爪美佳	資格	認定看護師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	16 / 30時間
担当者	西村小百合	資格	認定看護師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	7 / 30時間
担当者	安部貴成	資格	放射線技師	実務経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	時間	7 / 30時間

授業の目的・ねらい

終末期の経過をたどる人の特徴を理解して、苦痛や死への不安・恐怖を緩和し、QOLの向上を目指した援助方法を理解する。

その中で、治療困難で呼吸機能に障害がある人、血液造血機能に問題がある人、感染症による障害を受けた人の看護の特徴、症状、看護を理解する。さらに、人間の生と死について考え、自己の死生観を習得する。

学生の到達目標

1. 終末期にある人の特徴と、患者・家族の死の受容過程に応じた援助の方法について理解できる。
2. 終末期にある人の苦痛の緩和・症状のコントロールに対する看護について理解できる。
3. 呼吸機能、血液・造血機能に障害をもつ人の看護を理解できる。
4. 放射線療法を受ける患者、感染により障害を受け、終末期を迎える人の看護を理解できる。
5. 自己の死生観を述べることができる。

授業概要（授業計画）

<加賀爪美佳>

終末の経過をたどる人の特徴

1. 1) 終末期にある対象の理解
- 2) 終末期にあるがん患者の心理過程とそのQOL
2. 3) 終末期にある人の身体的苦痛の援助とQOL
- 4) 終末期にある人を支える家族への援助
3. 5) 終末期看護の体制 終末期医療のこれからの課題
- 6) 自己の生と死についての考え方

呼吸機能に障害をもつ人の看護

4. 1) 呼吸機能に障害をもつ人の特徴
- 2) 呼吸機能に障害の主要症状に対する看護
5. 3) 呼吸機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護
- 4) 呼吸機能障害の病態と看護『肺癌』

血液・造血機能に障害をもつ人の看護

6. 1) 血液・造血機能に障害をもつ人の特徴
- 2) 血液・造血機能障害の主要症状に対する看護
7. 3) 血液・造血機能障害の主な検査・治療・処置に伴う看護
- 4) 血液・造血機能障害の病態と看護『白血病』
8. 終講試験・まとめ

<阿部貴成>

放射線療法を受ける対象の看護

1. 1) 放射線療法とは
- 2) 放射線診断と治療
2. 3) 放射線防護と健康管理
3. 4) 放射線療法の看護
4. 終講試験・まとめ

<西村小百合>

感染により障害を受けた終末期を迎える人の看護

1. 1) 感染の概念、感染予防、感染症患者の看護
2. 2) 感染症患者の理解、看護の役割、症状に対する看護
3. 3) 病態と看護『結核・MRSA・エイズ』
4. 終講試験・まとめ

教科書

ナーシング グラフィカ22 成人看護学 成人看護学概論 メディカ出版
系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑪ アレルギー・膠原病・感染症 医学書院
系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院

参考書

成績評価方法

筆記試験、レポート、出席状況で総合して評価する。

科目名	老年看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義		1	1年 前期	
担当者	森千賀子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>超高齢社会の現況をふまえて、老いを生きるという事を学び、老年看護の役割が理解できる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢と老化の関係について学び、高齢者の特徴が説明できる。 2. 加齢に伴う、身体的・心理的・社会的特徴が説明できる。 3. 超高齢化社会の統計的に輪郭について学び、保健医療福祉権利擁護の動向がわかる。 4. 高齢者の今後の課題について説明できる。 5. 老年看護の定義及びその役割について説明できる。 6. 老年看護における理論・概念を学び、それに携わる者の責務がわかる。 7. 高齢者体験を通して、日常のさまざまな場面の不自由さがわかる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者について知る 老いに対するさまざまなイメージとは・・・ 2. 老いを生きるということ 加齢に伴う身体的・心理的・社会的側面の変化について 3. 超高齢化社会における看護活動の多様化について 4. 高齢者にかかわる保険・医療・福祉システムについて 高齢者の権利擁護 5. 老年看護の役割・特徴 6. 老年看護における理論の活用 7. 高齢者体験（校内探索） 8. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 資料作成して配布</p>							
<p>参考書</p> <p>日野原重明他監修 「看護のための最新医学講座 老人の医療17」 中山書店 2001 鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 26 老年看護概論・老年保健」 メヂカルフレンド社 中島紀恵子他著 「老年看護学 専門 19」 医学書院 岩本俊彦他著 「イラストで見る診る看る 老年看護」 TECOM 2002 「図説 国民衛生の動向」 厚生統計協会</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験・グループ演習態度・発表内容・レポートを総合的に評価する</p>							

科目名	健康な老年期の看護	必修	授業形態			単位数	開講時期	
			講義			1	1年 後期	
区分	専門分野							
担当者	今井幸子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>老年期における、さまざまな加齢変化をふまえて、生活機能を整える看護が理解できる。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者のヘルスアセスメントの枠組みとその方法が説明できる。 2. 高齢者の日常生活について説明できる。 3. 日常生活動作を支える援助について説明できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの枠組み <ol style="list-style-type: none"> ① 身体的健康のアセスメント ② 生活の自立状態のアセスメント ③ 心理・社会的健康のアセスメント ④ 環境のアセスメント ⑤ 生活史のアセスメント 2. 身体に加齢変化とアセスメント <ol style="list-style-type: none"> ① 皮膚とその付属品 ② 視聴覚とその他の感覚 ③ 循環系 ④ 呼吸系 ⑤ 消化器系 ⑥ ホルモンの分泌 ⑦ 泌尿生殖器 ⑧ 運動系 3. 日常生活を支える基本的活動 食事・食生活の支援 4. 排泄ケア 清潔の援助 5. 生活リズムを整える看護 コミュニケーション 6. セクシュアリティ 7. 社会参加 8. 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 資料作成して配布</p>								
<p>参考書</p> <p>鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 26 看護概論・老年保健」 メヂカルフレンド社 鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 27 健康障害をもつ高齢者の看護」 メヂカルフレンド社 岩本俊彦他著 「イラストで見る診る見る 老年看護」 TECOM 2002 後閑容子著 「エビデンスに基づく高齢者の看護ケア」 中央法規 2003</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験 グループ態度、レポート、授業態度を総合的に評価する</p>								

科目名	健康障害をもつ老年期の看護と展開	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義			2	2年 前期・後期
区分	専門分野						
担当者	松原利與子	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	15 / 60時間
担当者	西辻佳世	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	15 / 60時間
担当者	眞鍋誠子	資格	看護教員	実務経験	(有)・無	時間	15 / 60時間
担当者	曾根みゆき	資格	看護師	実務経験	(有)・無	時間	15 / 60時間

授業の目的・ねらい

高齢者に特有な症状や疾患を理解し、多様なニーズに対応した看護の実際を学ぶ。

学生の到達目標

1. 高齢者に特有な症状や疾患・障害に応じた看護がわかる。
2. 健康状態や受療状態に応じた看護がわかる。
3. 介護予防や家族支援を含む生活・療養の場における看護がわかる。
4. 高齢者の特徴をいかした看護過程が展開できる。

授業概要（授業計画）

<松原利與子>

1. } 症候のアセスメントと看護
2. }
3. 1) 発熱
- 2) 痛み
4. 3) 掻痒（かゆみ）
- 4) 脱水
5. 5) 嘔吐
- 6) 浮腫
- 7) 倦怠感
6. 8) 褥瘡・スキン-ケア
7. 筆記試験・まとめ

<西辻佳世>

身体疾患のある高齢者の看護

1. 1) 脳卒中
2. 2) 心不全
- 3) 糖尿病
3. 4) 慢性閉塞性肺疾患
- 5) がん
- 6) パーキンソン病・パーキンソン症候群
4. 7) インフルエンザ
- 8) 肺炎
- 9) 骨粗鬆症
- 10) 骨折

認知症機能障害のある高齢者の看護

5. 1) うつ
- 2) せん妄
- 3) 認知症
- 4) 認知機能および生活機能の評価
- 5) 認知症の看護
6. 治療を必要とする高齢者の看護
7. 1) 検査
- 2) 薬物療法
- 3) 手術
8. 筆記試験・まとめ

<眞鍋誠子>

健康状態や受療状況に応じた看護

1. 1) リハビリテーション
2. 2) 入院治療エンドオブライフケア
生活・療養の場における看護
3. 1) ヘルスポモーション
4. 2) 地域包括ケア
5. 3) 家族の看護
高齢者のリスクマネジメント
6. 1) 医療安全
7. 2) 救命救急
3) 災害
8. 筆記試験・まとめ

<曾根みゆき>

1. ~ 7. 看護の展開
誤嚥性肺炎にて入院となった患者の事例をもとに看護過程を展開する。
8. 事例・レポート作成

教科書

系統看護学講座	専門分野	老年看護学	医学書院
系統看護学講座	専門分野	老年看護 病態・疾患論	医学書院

資料作成して配布

参考書

日野原重明他監修 「看護のための最新医学講座 老人の医療17」 中山書店 2001
鎌田ケイ子他編集 「新体系看護学 27健康障害をもつ高齢者の看護」 メヂカルフレンド社
岩本俊彦他著 「イラストで見る診る見る 老年看護」 TECOM 2002
後閑容子著 「エビデンスに基づく高齢者の看護ケア」 中央法規 2003

成績評価方法

筆記試験、レポート提出状況、授業態度を総合的に評価する。

科目名	小児看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 後期	
区分	専門分野						
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>小児看護の対象である子どもと家族の特徴および、子どもを取り巻く社会・医療・環境状況について学ぶ。また、小児の健全な成長・発達を支援するための小児保健統計、法律、施策について学び小児看護の機能と役割、課題について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象、目的、役割について述べるができる。 2. 子どもを取り巻く社会環境（母子保健指標も含む）が理解できる。 3. 子どもと家族を支援するための法律・施策について理解できる。 4. 子どもの権利と小児看護における倫理について理解できる。 5. 小児看護で用いられる各理論を理解することができる。 6. 小児看護における看護師の果たす役割と今後の課題について述べるができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護学ガイダンス 小児看護の対象と目的 小児看護の歴史的変遷 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護と法律・施策① 4. 小児看護と法律・施策② 5. 子どもの権利と小児看護における倫理 6. 小児看護における理論 7. 小児看護の課題 8. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>厚生統計協会編集 国民福祉と介護の動向 厚生統計協会編集 国民衛生の動向 厚生労働省監修 厚生労働白書 中野綾美 ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験を主に、レポート、グループワーク、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	健康な小児と家族への看護	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	2年 前期
区分	専門分野						
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>小児各期の成長・発達について学び、発達段階に応じた子どもと家族への健康増進のための看護について学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期の成長・発達の概要を理解できる。 2. 小児各期の子どもの形態的成長・機能的発達・心理社会的発達について理解できる。 3. 小児各期の成長・発達に応じた子どもと家族への支援について理解できる。 4. 小児の発達段階に応じた健康な生活習慣の自立への援助方法について記述できる。 5. 小児期特有の事故と予防対策・安全教育について理解できる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達① 成長・発達の概念 成長・発達の原則及び影響因子 発達の速度と発育加速現象 2. 小児の成長・発達② 形態的成長 3. 小児の成長・発達③ 機能的発達 4. 小児の成長・発達④ 精神運動機能の発達 5. 小児の成長・発達⑤ 心理社会的発達 6. 小児の成長・発達⑥ 発育・発達評価と環境アセスメント 7. 新生児期・乳児期の成長発達に応じた生活への支援 8. 幼児期の成長発達に応じた生活への支援 9. 学童期の成長発達に応じた生活への支援 10. 思春期の成長発達に応じた生活への支援 11. 小児期特有の事故・外傷と看護① 事故の種類と救急処置 12. 小児期特有の事故・外傷と看護② 予防対策・安全教育 13. 健康増進のための生活援助技術① 14. 健康増進のための生活援助技術② 15. 筆記試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学② 小児看護各論 医学書院 浅野みどり編 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院</p>							
<p>参考書</p> <p>随時紹介する</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験を主に、レポート、グループワーク、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>							

科目名	健康障害をもつ小児と家族への看護と展開	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			2	2年 通年
区分	専門分野						
担当者	松田 修	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	三浦柳子	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	45 / 60時間

授業の目的・ねらい

小児期に多い疾患について学び、そのうえでさまざまな健康障害や健康問題をもつ小児と家族の看護を学ぶ。

小児看護については、子どもの権利を尊重しながら、子どもの発達段階や健康問題に応じて、安全・安楽に実施できる小児の基本的技術を習得する。

看護過程の展開については、小児期に多い疾患に関する事例を用いて展開し、子どもと家族が有する看護問題を解決する能力を養う。

学生の到達目標

1. 健康障害が小児の成長・発達や小児と家族の生活に及ぼす影響について理解できる。
2. 小児期に多い疾患の病態および治療について理解できる。
3. さまざまな状況にある子どもと家族への看護について理解できる。
4. 小児医療の場で行われる小児看護技術の基本を習得できる。
5. 紙上事例をもとに子どもと家族の看護過程を展開し、小児看護過程の基礎について理解できる。

授業概要（授業計画）

<松田 修>

1. 1) 染色体異常・先天性異常
2. 2) 新生児及び低出生体重児の疾患
3. 3) 小児の内分泌・代謝疾患
4. 4) 免疫・アレルギー疾患
5. 5) 小児の感染症
6. 6) 小児の呼吸器疾患
7. 7) 小児の循環器疾患
8. 8) 小児の消化器疾患
9. 9) 小児の血液疾患
10. 10) 悪性新生物
11. 11) 小児の腎・泌尿器及び生殖器疾患
12. 12) 小児の神経・筋疾患
13. 13) 小児の精神発達と障害
8. 筆記試験・まとめ

<三浦柳子>

1. 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護
2. 入院中の子どもと家族への看護
3. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護
4. 検査・処置を受ける子どもと家族への看護
5. 外来における子どもと家族への看護
6. 虐待・災害を受けた子どもと家族への看護
7. 急性症状・痛みのある子どもと家族への看護①
8. 急性症状・痛みのある子どもと家族への看護②
9. 周手術期における子どもと家族への看護①
10. 周手術期における子どもと家族への看護②
11. 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護①
12. 慢性疾患をもつ子どもと家族への看護①
13. 先天性疾患・心身障害のある子どもと家族への看護
14. 在宅医療を必要としている子どもと家族への看護
15. 終末期にある子どもと家族への看護
16. 筆記試験・まとめ
17. 小児看護技術①
18. 小児看護技術② 演習
19. 小児看護技術③ 演習
20. 看護過程の展開①
21. 看護過程の展開②
22. 看護過程の展開③ 演習
23. 看護過程の展開④ 演習 (個人ワーク提出)

教科書

奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院
奈良間美保他著 系統看護学講座 小児看護学② 小児看護各論 医学書院
浅野みどり編 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院

参考書

随時紹介する

成績評価方法

筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。

科目名	母性看護学概論	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期	
区分	専門分野		講義			1	1年 後期	
担当者	古浦和香	資格	助産師	実務経験	有・無	時間	15時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>リプロダクティブヘルス/ライツの理念と母性看護の対象及び母性看護の機能・役割を学ぶ。また、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解し、ヘルスプロモーションのための基礎的知識を学ぶ。</p>								
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象について理解できる。 母性看護の対象を取り巻く環境・社会について学び、母性看護学の役割について理解できる。 母性のライフサイクルとマタニティサイクルにおける課題と健康問題について理解できる。 								
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の基盤となる概念① 母性とは 母性を取り巻く社会の問題 母性看護の基盤となる概念② セクシュアリティ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 母性の対象を取り巻く社会の変遷と現状① 母性看護の歴史的変遷と現状 母性の対象を取り巻く社会の変遷と現状② 母性看護を取り巻く環境 母性看護の対象理解 女性のライフサイクルに伴う形態・機能の変化 母性の発達（ジェンダー） 母性のライフサイクル各期における看護① ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性 母性のライフサイクル各期における看護② ライフサイクル各期にまたがる健康問題と看護 筆記試験・まとめ 								
<p>教科書</p> <p>森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院</p>								
<p>参考書</p> <p>氏家幸子監修 母子看護学原論 廣川書店 国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会 吉沢豊予子編著 女性の看護学 母性の健康から女性の健康へ メヂカルフレンド社 村本淳子・森明子編著 母性看護学概論 医歯薬出版株式会社 武谷雄二編著 新女性医学大系9 女性と予防医学 中山書店 高橋真理・村本淳子 ウイメンズヘルスナーシング 女性のライフサイクルとナーシング 女性の生涯発達と看護 ヌーベルヒロカワ</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。</p>								

科目名	周産期・新生児の医療	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義			1	2年 前期
区分	専門分野						
担当者	吉良敏彦	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	井上康弘	資格	医師	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間

授業の目的・ねらい

子どもを産むにあたり生じる遺伝や不妊の問題について、その課題及び対応について学ぶ。
また、正常な分娩の機序と経過について学ぶ。
妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常と妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児に起こる問題について理解できる。

学生の到達目標

1. 出生前のリプロダクティブヘルスとしての遺伝や不妊について理解し、倫理的課題について洞察できる。
2. 妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常と胎児・新生児に起こる問題について理解できる。

授業概要（授業計画）

<吉良敏彦>

1. 出生前からのリプロダクティブヘルス① 遺伝、出生前診断
2. 出生前からのリプロダクティブヘルス② 着床前診断、胎児治療と遺伝子治療
3. 出生前からのリプロダクティブヘルス③ 不妊治療
4. DVDによる課題学習（倫理的課題）
5. 分娩の要素
6. 分娩の経過
7. 産婦と胎児の健康状態の診断
8. 筆記試験・まとめ

<井上康弘>

1. 妊娠の異常と看護①
2. 妊娠の異常と看護②
3. 分娩の異常と看護①
4. 分娩の異常と看護②
5. 新生児の異常と看護
6. 産褥の異常と看護
7. 精神障害合併妊婦と家族の看護
8. 筆記試験・まとめ

教科書

森恵美他著 系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院

参考書

授業で紹介

成績評価方法

筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。

科目名	周産期看護と展開	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			2	2年 通年
区分	専門分野						
担当者	古浦和香	資格	助産師	実務経験	(有)・無	時間	30 / 60時間
担当者	掛谷美加	資格	助産師	実務経験	(有)・無	時間	30 / 60時間

授業の目的・ねらい

正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦と新生児の看護を学習し、それをふまえて、周産期にある対象に、ウェルネスの観点から健康課題に応じた基礎的な看護の方法を学ぶ。さらに、母性看護学特有の看護技術の基礎を学ぶ。

学生の到達目標

1. 妊娠期にある対象の看護について理解できる。
2. 分娩期にある対象の看護について理解できる。
3. 産褥期にある対象の看護について理解できる。
4. 早期新生児期にある対象の看護について理解できる。
5. ウェルネスの観点から健康課題または看護問題を明らかにして、周産期にある対象の看護を行う過程について理解できる。
6. 母性看護に必要な基礎的看護技術を習得できる。

授業概要（授業計画）

<古浦和香>

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| 1. 妊娠期における看護① | 1) 妊婦の心理・社会的特性と家族心理 |
| | 2) 妊婦・胎児の看護アセスメント |
| 2. 妊娠期における看護② | 3) 正常な妊娠経過の看護 |
| | 4) ハイリスク妊婦の看護 |
| 3. 妊娠期における看護③ | 5) 正常から逸脱時の看護 |
| 4. 分娩期における看護① | 1) 産婦の心理・社会的特性と家族心理 |
| | 2) 産婦・胎児の経過診断とアセスメント |
| 5. 分娩期における看護② | 3) 正常な分娩経過の看護 |
| 6. 分娩期における看護③ | 4) 正常分娩からの逸脱時の看護 |
| 7. 産褥期における看護① | 1) 産褥の心理・社会的特性と家族心理 |
| | 2) 褥婦のアセスメント |
| | ①褥婦の経過 ②褥婦の日常生活とセルフケア |
| 8. 産褥期における看護② | 3) 褥婦の健康を整えるための看護 |
| 9. 産褥期における看護③ | 4) 正常産褥からの逸脱時の看護 |
| 10. 新生児期における看護 | 1) 新生児の生理 |
| | 2) 新生児のアセスメント |
| 11. 新生児期における看護 | 3) 新生児の異常と看護 |
| 12. 妊娠期における看護のまとめ | |
| 13. 分娩・産褥期における看護のまとめ | |
| 14. 新生児期における看護のまとめ | |
| 15. 筆記試験・まとめ | |

<掛谷美加>

周産期看護に必要な母性看護技術

1. 妊娠期における看護技術 レオポルド触診法、計測、聴診
2. 妊娠期における看護技術
3. 妊娠期における看護技術 産褥子宮底測定・観察、乳房ケア
4. 新生児への看護技術 新生児の全身の観察、抱き方、身体各部の計測
5. 新生児への看護技術 授乳と排気、衣類・おむつ交換、沐浴
6. 技術演習①
7. 技術演習②
8. 筆記試験・まとめ

看護の展開

1. 周産期看護の看護過程の考え方
2. 演習事例の説明(正常な経過をたどる産婦・褥婦・新生児)
3. 看護過程の展開グループワーク
4. ウェルネス看護診断の考え方に基づきワーク内容の修正
5. 看護過程の展開のグループワーク
6. 看護過程の展開のグループワーク発表①
7. 看護過程の展開のグループワーク発表②
8. 看護過程展開のまとめ

教科書

森恵美他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学概論 医学書院
石村百合子他著 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 井垣書院

参考書

新道幸恵編集 「事例で学ぶ母性看護学」 メヂカルフレンド社
太田操編著 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」 医歯薬出版株式会社
随時紹介する

成績評価方法

筆記試験を主に、レポート、グループワーク、演習、出席状況を含めて総合的に評価する。

科目名	精神看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義		1	1年 前期	
区分	専門分野						
担当者	石村由加	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>精神の健康という視点から人間への理解を深め、精神看護の対象者および精神保健活動の場について基礎知識を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学の基本的な考え方と、精神看護を実践する者としての視点や態度を学ぶ。 2. 現在社会における精神保健・看護ニーズの高まりとその背景を学ぶ。 3. 精神の健康や障害について理解し、予防と回復への視点を学ぶ。 4. 心のしくみと人格の形成について学び、精神療法の基本的考え方を学ぶ。 5. 人権擁護、精神医療・看護の歴史の変遷から、精神保健福祉についての理解を深める。 							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学とはなにか、精神看護を実践する者としての視点や態度を理解することができる。 2. 脳の機能が人の認識に及ぼす影響について考えることができる。 3. 精神の発達に関する主要な理論を理解することができる。 4. ストレス反応・危機理論について理解し、自身のセルフマネジメントについて考えることができる。 							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で学ぶ意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神看護学とはなにか 2) 精神障害をもつ人の病の体験と精神看護 2. 精神科医療の世界的な動向と日本の現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 「心のケア」と日本社会 2) 精神看護の課題 3. 精神の健康とストレスの影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神の健康とは 2) 心身の健康に及ぼすストレスの影響 4. 精神障害の疾患モデルと障害モデル <ol style="list-style-type: none"> 1) 心的外傷（トラウマ）と回復 2) 精神障害という考え方 5. 心のはたらきと人格の形成 6. <ol style="list-style-type: none"> 1) 心のはたらき 2) 心のしくみと人格の発達 7. 社会のなかの精神障害 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医学・精神医療の流れ 3) 精神障害と文化 4) 精神障害と法制度 8. 終講試験・まとめ 							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎 医学書院 2022</p>							
<p>参考書</p> <p>授業の中で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席状況、授業態度、筆記試験により評価する。</p>							

科目名	心の健康と精神医療	必修	授業形態			単位数	開講時期
			講義				
区分	専門分野				1	2年 前期・後期	
担当者	出山義洋	資格	認定看護師	実務経験	有・無	時間	22 / 30時間
担当者	柏原八重	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	8 / 30時間

授業の目的・ねらい

社会の変化と精神保健にかかわるさまざまな心の健康問題について学ぶ。
精神障害のある対象の特徴と疾患を理解し、臨床における精神科治療の実際を学ぶ。

学生の到達目標

1. 病と疾患との側面から精神障害を理解できる
2. 精神障害者を支える法律と基本的な施策を理解できる。
3. 精神疾患／障害の診断基準と分類について理解できる。
4. 主な精神障害の病態・治療・症状について理解できる。
5. 地域における精神保健と精神看護を理解できる。

授業概要（授業計画）

<出山義洋>

1. } 精神科疾患のあらわれ方
2. }
3. }
- 1) 精神を病むことと生きること
- 2) 精神症状論と状態像—理解への手がかかり
- 3) 精神障害の診断と分類
4. }
5. }
6. }
7. }
8. }
- 1) 精神科における治療
- 2) 精神療法
- 3) 薬物療法
- 4) 電気けいれん療法その他
- 5) 環境療法・社会療法
9. 精神障害と法制度
10. おもな精神保健医療福祉対策とその動向
11. 終講試験・まとめ

< 柏原八重 >

1. 関係のなかの人間
 - 1) システムとしての人間関係
 - 2) 全体としての家族
 - 3) 人間と集団
2. }
3. }
- 1) 「器」としての地域
- 2) 地域における生活支援の方法
- 3) 地域におけるケアの方法と実際
- 4) 学校におけるメンタルヘルスと看護
- 5) 職場におけるメンタルヘルスと精神看護
4. 終講試験・まとめ

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎 医学書院 2022
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学②精神看護の展開 医学書院 2022

参考書

授業の中で紹介

成績評価方法

出席状況、授業態度、筆記試験、レポート課題により評価する。

科目名	心の健康障害をもつ生活者への看護と展開	必修・選択	授業形態			単位数	開講時期
			講義・演習			2	2年 後期
区分	専門分野						
担当者	村上彰	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	12 / 60時間
担当者	越智邦浩	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	17 / 60時間
担当者	井上恵介	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	15 / 60時間
担当者	山内英裕	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	16 / 60時間

授業の目的・ねらい

精神科看護における対象の理解を深め、精神に障害のある対象と家族への治療的関わりや、精神症状によって影響された生活を整えるための看護の実際を学ぶ。

紙面上事例を通して精神科看護実践の知識・技術を学び、看護過程の展開について演習を行う。

学生の到達目標

1. 精神科看護の基本技法を学び、対象の理解および治療的関わりについて理解できる。
2. 対象の関わりについて、プロセスレコードを用いて振り返ることができる。
3. 診察・検査・治療を受ける対象に必要な看護を理解できる。
4. 障害をもちながら生活する対象に必要な支援方法を理解できる。
5. 精神障害をもつ対象の看護過程の展開が理解できる。
6. 対象のセルフケア能力を活かした看護の関わり、援助の方法を理解できる。

授業概要（授業計画）

< 越智邦浩 >

1. ケアの人間関係
 - 1) ケア的前提
 - 2) ケアの原則
 - 3) ケアの方法
 - 4) 関係をアセスメントする（プロセスレコード）
 - 5) 患者-看護師関係における感情体験
 - 6) 関係の視点からみた困難事例
 - 7) チームのダイナミクス

< 越智邦浩 >

2. 回復を支援する
 - 1) 回復の意味
 - 2) リカバリーのビジョン
 - 3) 治療の場におけるリカバリーの試みと看護の視点
 - 4) リカバリーを促す環境
 - 5) リカバリーを促す方法としてのグループ
 - 6) さまざまな回復のためのプログラム
 - 7) リカバリーのプロセス

< 村上彰 >

3. 医療の場におけるメンタルヘルスと看護
 - 1) 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス
 - 2) リエゾン精神看護とその活動
 - 3) リエゾンナースの活動の実際
 - 4) 看護師のメンタルヘルスへの支援

< 村上彰 >

4. 災害時のメンタルヘルスと看護

- 1) 災害時における心のケア
- 2) 災害にみまわれた人の心理とケア
- 3) 支援者のメンタルヘルスとケア

< 村上彰 >

5. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス

- 1) 看護師の不安と防衛
- 2) 感情労働としての看護
- 3) 看護師の感情ワーク
- 4) 看護における共感の光と影
- 5) 感情労働の代償と社会
- 6) 共感疲労を予防するためのいくつかのヒント

6. 終講試験・まとめ

< 山内英裕 >

看護過程の展開

1. 看護理論と看護過程 オレム・アンダーウッド看護理論
2. 精神疾患患者の看護過程展開のポイント
3. 事例説明・情報収集
4. アセスメント
5. 看護問題（診断）
6. 看護計画・実施・評価
7. グループワーク
8. 発表・まとめ・課題提出

< 井上恵介 >

1. } 入院治療の意味
2. } 1) 精神科を受診するという事
3. } 2) 治療の器としての病院・病棟
4. } 3) 入院中の観察とアセスメント
5. } 4) ケアの方向性を考える
6. } 5) 退院に向けての支援と実際
4. } 1) 精神科における身体のケア
5. } 2) 精神科における身体を通じた看護ケアの実際
6. } 3) 精神科の治療に伴う身体のケア
7. } 4) 身体合併症のアセスメントとケア
8. } 5) 精神科における終末期ケア
7. 安全をまもる
 - 1) リスクマネジメントの考え方と方法
 - 2) 緊急事態に対処する
 - 3) 緊急事態とスタッフの支援
8. 終講試験・まとめ

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学①精神看護の基礎 医学書院 2022

参考書

授業の中で紹介

成績評価方法

出席状況、授業態度、筆記試験、レポート課題、演習により評価する。